

陸連時報 五三

2020
令和2年

5 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2020年度主要競技会日程	182
理事会報告	183
2019-2020 ダイヤモンドアスリート第2回、第3回リーダーシッププログラム (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(青山学院大学))	186
JAAFアスリート発掘・育成プロジェクト クリニック事業 実施報告 (日本陸上競技連盟指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智)	189
2019年度U16指導者講習会実施報告(日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 田中 悠士郎)	191
世界陸連広告規程改訂に伴う国内適用について(競技運営委員会 副委員長 関根 春幸)	192
JAAF RunLink	194
大会観戦ガイド	195
陸協NEWS	196
事務局からのお知らせ	198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2020年度 主要競技会日程

2020年4月3日現在

	主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
5月	5/16(土)~7/31(金)	66 全日本中学通信陸上	各地						
6月				5(全)~7(日)	○ 20 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)	調整中	1 アジアリレー	調整中
				28(日)	35 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
7月				5(日)	★ '20 函館マラソン	北海道			
				18(土)	★ 60 実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)	19(日)	1 アジアハーフマラソン	チェンライ(タイ)
8月	12(水)~16(日)	73 全国高校陸上	エコバ(静岡)				23(日)~29(土)	28 日・韓・中ジュニア交流競技会	秋田(日本)
	13(水)~15(土)	55 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)						
	17(月)~20(木)	47 全国中学陸上	三重交通Gスポーツの杜(三重)						
	22(土)~23(日)	55 全国高専陸上	鴻ノ池(奈良)						
9月	20(日)	36 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)	11(金)~13(日)	○ 89 日本学生対校	デンカビッグスワン(新潟)	12(土)	31 IAU100km世界選手権	ウインズホーテン(オランダ)
10月	9(金)~13(火)	75 国民体育大会	鴨池(鹿児島)	2(全)~4(日)	41 全日本マスターズ	福井県福井(福井)			
	16(金)~18(日)	51 U16 陸上競技大会	日産スタジアム(神奈川)	11(日)	○ 32 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
	16(金)~18(日)	104 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	18(日)	GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)	17(土)	24 世界ハーフマラソン選手権	グデーニャ(ポーランド)
	23(金)~25(日)	36 U20日本選手権	広域公園(広島)	25(日)	59 全日本50km競歩高島	山形			
	23(金)~25(日)	14 U18日本選手権	広域公園(広島)	25(日)	○ 38 全日本大学女子駅伝	宮城			
				25(日)	GP 北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)			
11月				1(日)	○ 52 全日本大学駅伝	愛知・三重			
				8(日)	36 東日本女子駅伝	福島			
				15(日)	10 神戸マラソン	兵庫			
				22(日)	40 全日本実業団女子駅伝	宮城			
				29(日)	10 大阪マラソン	大阪			
12月	6(日)	74 福岡国際マラソン	福岡	13(日)	'20 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	20(日)	28 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	20(日)	39 山陽女子ロードレース	岡山			
	20(日)	71 全国高校駅伝	京都	20(日)	51 防府読売マラソン	山口			
				30(水)	○ '20 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
1月	17(日)	39 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(金・祝)	69 元旦競歩	東京			
	24(日)	26 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(金・祝)	65 全日本実業団対抗駅伝	群馬			
	31(日)	40 大阪国際女子マラソン	大阪	31(日)	'21 大阪ハーフマラソン	大阪			
2021	6(土)~7(日)	104 日本選手権・室内競技	大阪城ホール(大阪)	7(日)	70 別大マラソン	大分			
	6(土)~7(日)	'21 日本室内陸上大阪	大阪城ホール(大阪)	7(日)	75 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	14(日)	6 全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	14(日)	32 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
2月	21(日)	104 日本選手権20km競歩	兵庫	14(日)	49 実業団ハーフマラソン	山口			
	27(土)	104 日本選手権クロスカントリー	海の道海浜公園(福岡)	21(日)	55 青梅マラソン	東京			
	27(土)	36 U20日本選手権クロスカントリー	海の道海浜公園(福岡)	21(日)	'21 熊本城マラソン	熊本			
	28(日)	76 びわ湖毎日マラソン	滋賀	21(日)	'21 京都マラソン	京都			
3月	7(日)	'21 東京マラソン	東京	14(日)	○ 24 日本学生ハーフマラソン	東京	19(金)~21(日)	20 世界室内選手権	南京(中国)
	14(日)	'21 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	21(日)	○ 15 日本学生20km競歩	石川	20(土)	'44 世界クロスカントリー選手権	バザースト(オーストラリア)
	21(日)	45 全日本競歩能美	石川	21(日)	○ 24 日本学生女子ハーフマラソン	島根	21(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)
	調整中	104 日本選手権10000m	調整中	調整中	★ GP 出雲陸上	県立浜山公園(島根)	調整中	29 世界競歩チーム選手権	ミンスク(ベラルーシ)
	調整中	ゴールデングランプリ	調整中	調整中	★ GPP 静岡国際陸上	エコバ(静岡)	調整中	5 日中韓3カ国交流	中国開催予定
	調整中	104 日本選手権混成	調整中	調整中	★ 68 全日本実業団	ヤンマースタジアム長居(大阪) / ヤンマーフィールド長居(大阪)	調整中	18 U20世界陸上競技選手権	ナイロビ(ケニア)
	調整中	36 U20日本選手権混成	調整中	調整中	★ GP 木南道孝記念	ヤンマースタジアム長居(大阪)	調整中	15 アジアクロスカントリー選手権	香港
	調整中	104 日本選手権	調整中	調整中	★ GP Denka Athletics Challenge Cup	デンカビッグスワン(新潟)			

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

理事会報告

第59回理事会

日時：2020年3月19日（木）

14時00分～16時07分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 14階

岸清一メモリアルルーム

理事総数30名中出席者25名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

【協議事項】

1. 第10期事業計画・収支予算

尾縣専務理事より事業計画が、小手川財務委員長より収支予算が、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

【第10期事業計画】

第10期事業計画においての重点事項は下記の通り。

(1) 東京2020オリンピックの開催

- ❖東京2020オリンピックを迎える年として、ここに至るまでの強化策の集大成とする。各種目が設定した目標の達成を図り、東京2020オリンピックの成功を導く。

【東京2020オリンピックに向けた方針】

- ・メダル、入賞を一つでも多く
- ・舞台に立つアスリートを一人でも多く
- ❖競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として、オリンピックテストイベント「READY STEADY TOKYO -陸上競技」を国立競技場で開催し、万全の体制で迎える。
- ❖東京2020オリンピックの開催は、陸上競技の価値を向上させる機会であり、様々な分野において、そのピクチャンスを戦略的、効果的に活かす。

(2) 競技者育成指針の策定と指導者資格制度の整備

競技者育成指針、競技者育成プログラムの理念に基づき、指導者養成の方法、指導者登録システム等の検討を行い、指導者養成指針の策定のもと、質の高い指導者制度を目指す。

(3) 登録制度の改正に向けて

「JAAF VISION 2017」に掲げるアスレティックファミリーの拡大のために、競技者登録、審判登録、記録管理等を統合する基幹システムの開発と、登録制度の改正に向けて準備を進める。

(4) JAAF Runlinkの本格展開

ランニングを楽しむ環境・機会を提供することを目的のRunLinkの本格展開に向けて、ロードレースの新たな枠組みを考察する。「JAAF VISION 2017」に謳うウェルネス陸上の実現に向けて、競技団体としての責務を果たす。

(5) ガバナンスの確保に努めること

競技団体として、その業務運営が大きな社会的影響力を有するとともに、国民・社会に対しても適切な説明責任を果たしていくことが求められている。高いレベルのガバナンス確保のためにも、確固たる経営基盤を確立し、健全な組織運営を自ら行動で示す。

(6) ポスト東京2020を見据えて

東京2020オリンピックのレガシーを、2021年度以降の陸上競技の財産として残し、守り、継承していくことを念頭におき、各種事業に取り組む。

【第10期収支予算】

経常収益21億4,090万円、経常費用25億3,560万円、当期経常増減額は△3億9,470万円となる。

(1) 経常収益

- ①基本財産運用収益は656万円。基本財産12億円に対する利息収入。

- ②登録料受入収益は2,670万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各100円、高校と中学生が各50円。

- ③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。

- ④受取寄付金はなし。

- ⑤受取委託金・助成金は、3億470万円。日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・補助金・助成金収入。

- ⑥事業収益は17億5,487万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。

- ⑦その他事業収益は2,837万円。器具検定料、競技場公認料、後援名義使用料等の収入。

(2) 経常費用

- ①事業費は23億9,060万円。競技会予算、委員会予算、マーケティング予算、広報予算、加盟団体等への地域活性化助成金、イベント等に関する費用。

- ②管理費の事務局運営費等は1億4,500万円。

(3) 各委員会予算

総務企画委員会10万円、強化委員会4億8,159万円、法制委員会10万円、財務委員会20万円、競技運営委員会1,175万円、普及育成委員会7,000万円、施設用器具委員会1,200円、科学委員会1,400万円、医事委員会1,650万円。

2. 2020年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2020年度主要競技会日程が原案通り承認された。詳細は、本時報182頁参照。

3. U20・U18・U16 3カテゴリーの競技会構想

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、U20・U18・U16 3カテゴリーの競技会構想が原案通り承認された。

【競技会構想】

2020年度

ジュニアオリンピック陸上競技大会をJOCジュニアオリンピックカップU16陸上競技大会に名称変更。日本選手権リレーを同時開催（日産スタジアム/神奈川）。

2021年度

日本陸上競技選手権大会とU20日本陸上競技選手権大会を同時開催。U18日本陸上競技選手権大会は、U16陸上競技大会と同時開催となり、JOCジュニアオリンピックカップU18/U16陸上競技大会とし、日本選手権リレーをあわせて開催。

なお、2019年度、2020年度、2021年度の3年間の開催で予定されていた広島でのU20/U18日本陸上競技選手権大会は、上記により、2020年度までの2年間となることがあわせて報告された。

4. 2019年度栄章

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。功労章3名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、日本記録章49名、室内日本記録章延べ4名、U20日本記録章延べ10名、U20室内日本記録章3名、U18日本記録章4名。

5. 東京2020オリンピック競技大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、東京2020オリンピック競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正が原案通り承認された。

詳細は本連盟WEBサイト

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12752/> 参照。

6. ウィンズホーテン2020 IAU100km世界選手権大会

日本代表選手選考要項

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、ウィンズホーテン2020 IAU100km世界選手権大会日本代表選手選考要項が原案通り承認された。

7. 第104回日本陸上競技選手権大会参加資格の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、第104回日本陸上競技選手権大会参加資格の改正が原案通り承認された。

8. 2020年度強化競技者規程

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2020年度強化競技者規程が原案通り承認された。(資料1参照。)

9. 登録会員規程、公認競技会規程、公認記録規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、登録会員規程、公認競技会規程、公認記録規程の改正が原案通り承認された。(資料2参照。)

10. 評議員会の開催

尾縣専務理事より、評議員会の開催について資料に基づき説明があり、定時評議員会として2020年6月22日(月)14時からの開催が承認された。

【報告事項】

1. Trail & Mountain Running World Championships 2021の概要

尾縣専務理事より資料に基づき、Trail & Mountain Running World Championships 2021の概要が報告された。

2. 2020年度競技規則の修改正

3. 競技会における広告および展示物に関する規程の改正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

(資料配布のみ)

1. サトウ食品日本グランプリシリーズ2020年シリーズ要項

詳細は本連盟WEBサイト

<https://www.jaaf.or.jp/gp-series/> 参照。

2. 2020年度強化競技者

ゴールドアスリート (18名)

サニブラウン アブデルハキーム、桐生祥秀、多田修平、小池祐貴、白石黄良々、橋岡優輝、高橋英輝、山西利和、池田向希、川野将虎、鈴木雄介、藤澤勇、丸尾知司、野田明宏、谷本観月、一山麻緒、岡田久美子、藤井菜々子

シルバーアスリート (7名)

大迫傑、高久龍、上門大祐、定方俊樹、古賀友太、北口榛花、松田瑞生

3. 東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表内定選手

詳細は本連盟WEBサイト

<https://www.jaaf.or.jp/athletes/tokyo2020/?event=8#searchbox> 参照。

4. 2020年度S級公認審判員昇格者

5. JRWJs第6期認定者

【資料1】

2020年度強化競技者規程

(目的)

第1条 公益財団法人日本陸上競技連盟(以下「本連盟」という)は、東京2020オリンピック競技大会、及びその先の世界選手権、オリンピック競技大会において、メダル獲得及び8位入賞が期待されると本連盟が認定した競技者の、本連盟の強化方針に沿った個人強化活動の充実を図るために本規程を定める。

(格付けの基準)

第2条 強化競技者の格付けは2ランクとする。

(1) ゴールドアスリート

- 強化競技者指定対象国際競技会で8位以内に入賞、またはリレー種目でメダルを獲得した競技者。
- 2018年度、2019年度に強化競技者標準記録対象競技会において、各年度につき定められたゴールドアスリート指定標準記録を満たした競技者。
- 2020年度に強化競技者標準記録対象競技会において、2020年度のゴールドアスリート指定標準記録を新たに満たした競技者。
- ワールドアスレティックス(以下「WA」という)が2020年3月最終週、または2020年9月最終週に更新するワールドランキングにおいて、各国3名ランキングで4位以内の競技者。

(2) シルバーアスリート

- 強化競技者指定対象国際競技会のリレー種目で8位入賞した競技者。
 - 2019年度に強化競技者標準記録対象競技会において、2019年度のシルバーアスリート指定標準記録を満たした競技者。
 - 2020年度に強化競技者標準記録対象競技会において、2020年度のシルバーアスリート指定標準記録を新たに満たした競技者。
 - WAが2020年3月最終週、または2020年9月最終週に更新するワールドランキングにおいて、各国3名ランキングで8位以内の競技者。
- 2 強化競技者指定対象国際競技会、強化競技者標準記録対象競技会及び指定標準記録は、年度毎に本連盟が別に定めるものとし、本連盟は、これを年度途中においても、見直すことができるものとする。

(資格の付与)

第3条 本連盟強化委員会、競技者が第2条のいずれかに該当し、かつ、当該競技者が第7条に定める強化競技者の義務を遵守することを承諾し、かつ本連盟との間で強化競技者契約を締結することを条件として、当該選手に対し、強化競技者として資格を付与する。

(指定の期間)

- 第4条
- ゴールドアスリートの指定期間は、資格を付与された日(以下「資格付与日」という)の翌日から2021年3月末日までとする。
 - シルバーアスリートの指定期間は、資格付与日の翌日から2021年3月末日までとする。
 - 前各項にかかわらず、資格付与の要件若しくは処遇について本規程が改定され、又は、第2条第2項に基づいて本連盟が指定する競技会若しくは標準記録の年度毎の指定若しくは年度途中にお

る見直しが行なわれた場合において、改定後の規程又は、競技会若しくは標準記録の新年度における指定若しくは年度途中の見直しの趣旨に照らし、本連盟強化委員会が必要と認めるときは、本連盟強化委員会は、指定された期間の途中でであっても、指定を解除し、または処遇の変更をすることができる。

(指定の解除)

第5条 本連盟強化委員会は、強化競技者が、次のいずれかに該当するときは、年度途中であっても、指定を解除し、または強化費の使用を停止することができる。

- 引退した競技者
- 長期間競技会に出場していない競技者
- 居場所情報の提出義務違反や検査未了等、アンチ・ドーピングの理念に反する行動をとった競技者
- 第7条に違反した競技者
- 強化競技者契約に違反した競技者
- その他、本連盟強化委員会が強化競技者として不適切であると判断した競技者

(処遇)

第6条 強化費は、ゴールドが年間400万円、シルバーが年間150万円を上限とし、資格付与の時期により金額は異なる。なお、強化競技者の処遇の詳細は、本連盟が別に定める。

(強化競技者の義務)

第7条 強化競技者の指定を受けようとする競技者は、次に定める義務を遵守することを承諾すると共に、本連盟との間で、別途、強化競技者契約を締結しなくてはならない。

- 本制度の目的に即して、競技力の向上に努める。
- 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する国際競技会に出場する。
- 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する行事に参加する。
- 原則として年1回、本連盟強化委員会が指定する測定及びメディカルチェックを受診する。
- アンチ・ドーピングに関わる全ての基準を適正に遵守する。
- 本連盟強化委員会に対し、定められた時期に強化計画の提出と活動実績の報告をする。
- 本連盟強化委員会が必要とした面談に応じる。
- 日本を代表するトップアスリートとして自覚を持ち、メディアからのインタビュー、取材及び撮影などを受けるときは、身だしなみや服装に注意し誠実に対応する。
- メディアへの対応、肖像権等に関する義務は、本連盟が別に定める。

(附則)

第1条 2019年度に係る強化競技者規程は、2020年3月末日をもって効力を失い、同規程による指定は解除されるものとする。

2020年度強化競技者指定に関する対象競技会

1. 強化競技者指定対象国際競技会

- (1) ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
- (2) 東京2020オリンピック競技大会

2. 強化競技者標準記録指定競技会

2020年4月1日～2021年3月31日までの下記競技会を対象とする。

- (1) 国際競技会
 - WAワールドランキングのDカテゴリ以上の競技会
- (2) 国内競技会
 - 1) 第104回日本陸上競技選手権大会
 - 2) 2020日本グランプリシリーズ(グランプリプレミア・グランプリ)
 - 3) ホクレンディスタンスチャレンジ2020
 - 4) WAワールドランキングのDカテゴリ以上の競技会
 - 5) 第75回国民体育大会
 - 6) 第68回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
 - 7) 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会
 - 8) 第73回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
 - 9) ユージーン2021世界陸上競技選手権大会の選考競技会として指定された競技会

2020年度 強化競技者標準記録

男子		種目	女子	
ゴールド	シルバー		ゴールド	シルバー
9.87	9.93	100m	10.82	10.92
19.85	19.94	200m	22.11	22.29
43.96	44.38	400m	49.76	50.28
1.43.31	1.43.89	800m	1.57.57	1.58.07
3.30.51	3.31.91	1500m	3.57.05	3.59.65
12.58.17	13.01.78	5000m	14.30.96	14.48.26
26.55.92	27.06.82	10000m	30.32.43	30.58.26
8.06.54	8.12.11	3000mSC	9.10.92	9.19.19
13.06	13.15	110mH/100mH	12.53	12.64
48.10	48.36	400mH	53.80	54.27
8.39	8.31	走幅跳	7.00	6.92
17.49	17.28	三段跳	14.72	14.54
2.36	2.33	走高跳	2.00	1.98
5.92	5.81	棒高跳	4.83	4.75
22.04	21.67	砲丸投	19.81	19.09
67.86	67.00	円盤投	66.96	65.33
78.99	78.26	ハンマー投	75.44	74.53
89.41	87.40	やり投	66.45	65.27
8563	8460	十種競技/ 七種競技	6577	6461
2:04:06	2:06:35	マラソン	2:20:21	2:22:31
1:18:21	1:19:05	20km競歩	1:26:16	1:28:04
3:40:49	3:43:22	50km競歩		

※ゴールドは世界ランク4位平均、シルバーは8位平均
 ※世界Rank4位、8位の記録は2015、2016、2017、2019の平均記録で算出

【資料2】

改正施行日:2020年4月1日

【登録会員規程】 ※改正箇所

現行	改正
<p>(外国人の登録) 第11条 日本に居住している外国人は、都道府県陸協の審査を経て本連盟の登録会員となることができる。ただし、中学生登録、高校生登録、大学生登録に関しては、中体連、高体連、日本学連の規程による。外国人の登録は、本来所属すべき国またはテリトリー(領土)の陸上競技連盟の事前承認なしに登録することはできない。</p>	<p>(外国人の登録) 第11条 日本に居住している外国人は、本連盟の承認を前提として、都道府県陸協の審査を経て本連盟の登録会員となることができる。ただし、中学生登録、高校生登録、大学生登録に関しては、中体連、高体連、日本学連の規程による。外国人の登録は、本来所属すべき国またはテリトリー(領土)の陸上競技連盟の事前承認なしに登録することはできない。承認の証として、承認書(Approval LetterもしくはAuthorization Letter)が都道府県陸協経由で本連盟に提出されなくてはならない。承認書の有効期限は、4月から3月までの1年間とする。</p>

【公認競技会規程】 ※改正箇所

現行	改正
<p>(参加競技者) 第5条 公認競技会には、本連盟登録会員規程に定める登録会員のみが競技者として参加できる。ただし、以下の者についてはこの限りではない ①道路競走競技会に参加する競技者 ②小学生競技者 ③主催者が認めた外国人競技者。 2. 公認競技会には次の各号に該当する者は参加を認められない。 ①国際陸上競技連盟(以下、「IAAF」という。)規則及び国内適用第1章、第2章に反する者。 ②IAAF または本連盟の資格審査により、資格停止または競技会参加を禁止されている者。 ③外国人競技者にあつてはその者の属する国のIAAF 加盟団体から競技者資格および競技会参加許可に関する証明書を得ていない者。</p>	<p>(参加競技者) 第5条 公認競技会には、本連盟登録会員規程に定める登録会員のみが競技者として参加できる。ただし、以下の者についてはこの限りではない ①道路競走競技会に参加する競技者 ②小学生競技者 ③本連盟が出場を認めた外国人競技者。 2. 公認競技会には次の各号に該当する者は参加を認められない。 ①ワールドアスレティックス(以下「WA」という。)規則及び国内適用第1章、第2章に反する者。 ②WA または本連盟の資格審査により、資格停止または競技会参加を禁止されている者。 ③本連盟登録会員規程により本連盟に登録している外国人を除く外国人競技者にあつてはその者の属する国のWA 加盟団体から競技者資格および競技会参加許可に関する証明書を得ていない者。主催者は、出場を希望する外国人競技者から提出された所属する国の陸連発行の出場承認書(Approval LetterもしくはAuthorization Letter)を本連盟に送付し許可を得なくてはならない。</p>

【公認記録規程】 ※改正箇所

現行	改正
<p>第3条 公認記録には、以下の条件が必要となる。 ③競技者が本連盟登録会員、もしくは主催者が認めた外国人競技者であること。</p>	<p>第3条 公認記録には、以下の条件が必要となる。 ③競技者が本連盟登録会員、もしくは本連盟が認めた外国人競技者であること。</p>

2019-2020 ダイヤモンドアスリート第2回、第3回リーダーシッププログラム

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介（青山学院大学）

2020年東京オリンピックと、その後の国際大会での活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化育成する「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートを育成します。本稿では、2020年2月に味の素ナショナルトレーニングセンターで実施された「リーダーシッププログラム」の第2回、第3回の模様を報告いたします。

講師：足立潤哉氏（株式会社ホープス）

足立氏からグループで協力して義手を作る、「Helping Hands プログラム」が課題としてだされ取り組んだ。このプログラムは、テーブルの上にあえてわかりにくく書かれている説明書とともに、義手に必要な多くのパーツが置かれており、その説明書をもとにグループ全員で一つの義手を作成する事を目標とする。最初は何を作っているかわからないメンバーもいたが、作業開始10分時にビデオで「“先天的に、あるいは地雷や爆撃、事故などで手の機能を失ってしまった人々が30万人いる。私たちは、できるだけ多くの方々に『手』を届けたい。今、あなた方が組み立てているのは、その『手』なのだ」とのメッセージが流れ、日常的に使う義手を作っていることを認識する。このプログラムを実施する事で、①

SDGs意識が高まり、②研修における学びの質が向上し、③発展途上国・貧困国で手を失い苦しむ方々に「義手」が寄付される、つまり「CSR活動と人材育成活動が同時両立できる」仕組みとなっている。

参加者は苦戦しながら、「組み立て型の義手キット」を協力し完成させ、「想いを表現したイラストや写真をパッケージング」を行った。まとめとして最後に行われたディスカッションでは、「自分たちの作ったものが実際に使われると知り、作る意識が変わった」などの意見が聞かれた。作業途中で、ビデオを見て「なんのために作っているのか」を確認した後に、作業に対する取り組みが変わる体験をしたことによって、「行動の意味がわかると、人は熱意をもって取り組むことができる」ことを経験する事ができた。日々の練習をこなすことだけではなく、「何を目的に、日々の活動を行うか」の大切さに気づき、さらに実際に使われる「エンドユーザーがいる」ことを想定しながら作業することによって、「目的」と「作業」の最適化の意識を高めるきっかけとなった。

講師：田中ラオウ氏（画家）

2006年に画家としてのキャリアをスタートさせ、2014年にカリカチュア（人物の性格や特徴を際立たせ



るために誇張や歪曲を施した人物画)の世界大会で優勝した田中氏から、世界一になる過程から、そのプロフェッショナルとしての姿勢を学んだ。プロとして活動していく上で、モチベーションの保ち方に言及し、やりたい事をできる環境づくりを自らの手で作っていく大切さについて、自らの経験を交えながら選手へ伝えた。なるべく評価される場所に出向き、プライドが傷つくかもしれないけども、自分の技術がどのように捉えられているのか、そもそもそのような場所に飛びこむ勇気の必要性がある。地道にやっているものも一度疑い、最短・最速で目標に近づく方法を常に考え、行動していくことが結果につながっていく。アーティストの世界では、作品の個性が大事にされるが、その中でも突き詰めていくと基本に立ち返ることが多い。最短距離でいったつもりが、実は遠回りになってしまうこともあるので、全体を見通すことが大切であるが、そのために先人の意見を聞く事や、客観的に分析してくれる他者がいることが重要となる。自分の目指すものがわからない、どうすればその道にたどりつけるかわからないのが、頂点を極めるものとしてはとてもつらいことであるため、その道筋を探ることが、普段の技術を磨くと同じくらい重要であると考えられる。

田中氏の講義全体を通じて、普段あまり交流のないアーティストからの選手への話は、スポーツ界側からは見えない部分が多く、競技と向き合う上でひとつのアクセントとなったのではないかな。

DAとの対談：為末大氏、朝原宜治氏

本プログラム監修を務める為末氏と本プログラムマネージャーの朝原氏が、ダイヤモンドアスリートと対談形式でリーダーシッププログラムが実施された。東京オリンピックが直前に迫り、その選手選考が本格化していくなか、コロナウイルスなど自身でコントロールできない環境下におかれる選手たちに、朝原氏、為末氏の経験から様々なアドバイスが送られた。意見交換をした主な内容は以下の通りである。

- ・目指すターゲット（試合）が変動している時の調整方法
- ・メディア対応の仕方と問題があった場合の対処
- ・陸上競技発展のためにアスリートができること、発信すべきこと
- ・アスリートのとるべき行動とその注意点

講師：田島充士氏（東京外国語大学）

教育心理学の専門家である田島氏から、異なる関心や専門を持つ人々と協働するために必要となる「異文化コミュニケーション」についての講義を受けた。日本を代表するトップアスリートは、主体的に様々な専門家やサポーターの「支援」「助言」を求めながら、結果を出すことが求められる。その際、異能力を持つ専門家と協力関係（チームワーク）を築く上で、異文化コミュニケーションは効果を発揮する。ただし、異文化コミュニケーションは普段何気なく使っている言葉を相手が理解して



いないこともあることを念頭に置く必要がある。例えば、陸上競技者は「ケツワレ」についてどのような意味をもつかわかる人が多いが、陸上競技者以外の人にその言葉の意味を知っている人は少ない。そのため、異文化コミュニケーションには「知識+論理的言語操作能力」が必要となるが、それは、普段説明しないことを説明する必要があり、簡単に獲得できる能力ではない。

異文化を持つ陸上競技界以外の人とコミュニケーションをとる時には、相手の立場に立つ「他者」のイメージを持つことが大切で、「物語」を語るように他者へ説明する能力が必要となる。異文化コミュニケーションでは、そのような能力を発揮するために、他者の問いを大切に、他者に対する尊重と好奇心が重要となる。「他者への尊敬と感謝を持って成長する」と願う人格形成は、実社会で活躍するリーダーにとって重要となる。他者尊重をともなう人格の形成は、結果として、個々人にとっての社会的成長につながるキーとなる。世界で活躍するリーダーが謙虚で丁寧なのは、他者に支えられ、また他者を支える出会いを通じて、自分の力を力強く創造するレジリエンス（しなやかさ）を獲得してきたのであろう。本講義では、ダイヤモンドアスリートも日本の代表として「丁寧に、強く、しなやかに」生き、他者との出会いを成長の機会にできる人物となる機会となった。

講師：大山峻護氏（元総合格闘家）

総合格闘技団体のK-1やPRIDEなどの試合で活躍した大山氏から、逆境を乗り越え挑戦する姿勢について講義とワークショップが行われた。大怪我に何度も見舞われた大山氏は、「何度もやめようと思った」選手生活であったが、復活しピーター・アーツに勝利するなど世界の舞台で活躍した。その背景には、常に恐怖と隣り合わせで引退するその日まで試合前に楽しいという感覚はなかったが、それを乗り越えて勝利し、支えてくれた人への感謝を示すことが、なによりの挑戦の原動力となっていた。ケガで試合ができない時期が長く、復帰するためのトレーニングにもかなりの時間を要する中で、「なんのために戦うのか」「どのような自分になりたいのか」という、大山氏自身の内なる闘志を絶やさないために「練習できないときの練習」を大切に乗り越えていった。自身を「センスもないし、体力もなかった」という格闘家であったが、「勘違いする力」によって成長していったと語り、いつか強くなってスポットライトを浴びて自身がある場に立つ、そのイメージを「嬉しい」などの感情を伴いイメージできるかが大きな力となる。講義の最後に、大山氏が現在手掛ける格闘技とフィットネスを融合した「ファイトネス」を体験し、命を懸けた戦いを繰り広げ活躍してきた大山氏の姿から、挑戦する姿勢について学ぶことができた。



JAAFアスリート発掘・育成プロジェクト クリニック事業 実施報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

【クリニックの目的】

U13、U16アスリートクリニック（JAAFアスリート発掘・育成プロジェクト クリニック事業）は、小学校高学年から中学1年生を対象に実施しているプログラムです。この時期における児童、生徒はまさに発育・発達途中であり、また性別や年齢相対効果など、その特性を十分に踏まえた上での指導が必要不可欠であります。

本クリニックは、全てのスポーツの基本である「走る・跳ぶ・投げる」を、基本的な動きづくりを中心に、「楽しさ」を伝えることを目的として、日本陸連指導者養成委員会のメンバーで行っております。また将来の日本陸上界を担う若いアスリートを発掘・育成するきっかけ作りや、都道府県の陸上競技協会の方々と様々な意見交換をしながら連携を深める機会としても役立っています。

【日本陸連の取り組み】

2018、2019年度と本クリニックの内容を少しずつ変化させてきました。実技講習として「走・跳・投」の3つの種目を必ず体験するようにしております。

昨年度より“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会では、今までの個人単発の種目に加えて新たに、コンバインド（混成競技）を取り入れました。これは、一つの種目（競技）に集中、加熱する昨今の状況を鑑みて、小学生がいろいろな種目にチャレンジし、また、指導者の方もいろいろな種目を教えられるようになるという考えからきています。コンバインドA（走高跳と80mハードル）、コンバインドB（走幅跳とジャベリックボール投）がそれです。「走・跳・投」の3種目ではありませんが、年齢を考慮し、2種目の組み合わせで形成しています。それに追従する形で、本クリニックも、種目を選択させて実施する方法から、参加者は必ず3種目を行う方式にしました。それに伴い、練習するだけのクリニックではなく、最後に記録を測定することにより、自分の種目についてはもちろんですが、初めて経験した種目にかかなり興味を持つようになったと感じます。光電管を利用した、50mまたは100mの測定も行いました。また、クリニックの最後に記録証を配布することで、次の興味付けにもつながると期待しております。

講義は、今まで指導者、保護者の方々に向けて「発育・発達」「栄養」の2本柱で実施をしてまいりました。地域の声として、「実際に指導している委員の指導方法を見たい」、「選手達の様子が見たい」との要望を受け、それら講義および実技講習をすべて、指導者、保護者、児童・生徒と一緒に受ける形としました。これにより、児童・生徒も自分たちの発育発達について学び、今記録が出な

く伸び悩んでいる子どもが、中学・高校から伸びた選手や、トランスファー（種目間の移動）によって活躍してきた身近なトップ選手がいることを知り、勇気づけられたり希望を持てるようになるなど、フォローアップの手助けができたと感じております。

栄養講習は、昼食を食べた後に行います。日本陸連医事委員会スポーツ栄養部とも連携し、今食べたものが、身体にどのような働きをするのか、今後どのような種類のもの食べたらよいのかを、具体的に親子で会話しながらアクティブラーニング的な講義を行います。講義終了後には保護者の方が多数相談に来ています。トレーニングだけでなく、食育は保護者の方の意識も高く今後も必要不可欠な講義と感じております。

【都道府県の取り組み】

都道府県陸上競技協会の取り組みは様々ですが、その中で、最も多く聞くのが、指導者、場所、器具などの環境に関する問題です。

場所はあるけど、指導者がいない。競技場があるけど、高校生が使用していると小中学生が使用しづらいなど。日本陸連では昨年度より、普及育成委員会から指導者養成委員会に名称変更し、指導者の育成・養成により重きを置いています。従って、前述したように、クリニックの講義を児童・生徒、指導者、保護者が同時に受けることで、指導者が実際の指導を見聞きし、また実技の内容等について指導者からの質疑も多く受けられるようになりました。

場所の問題についても、地元の先生と連携をして、国体の会場になるような競技場ではなく、地域の競技場や学校などを使用していただき、自治体とも連携をとり、本クリニックを進めております。特に学校で行う際には、安全面から場所の制限や、器具が不十分などの問題も出てきました。しかしそこは、「器具がないからできない」ではなく、「あるもので工夫しよう」という創意工夫も感じられました。実際に現場では常に競技場を使えるわけでもないので、普段の場所（学校のグラウンド）で普段の器具（学校の備品）を使用して楽しくできる工夫をしていると強く感じました。

このように、地域の先生方の熱意を我々指導者養成委員会をサポートするという新たな側面が生まれました。従来の陸連からの一方的な形ではなく、お互いが相互乗り入れできるようになってきています。また地元の学校での実施により、クリニックに参加する児童・生徒の中に、陸上クラブなどの団体に所属していない子どもたちや陸上未経験の子どもたちの参加も散見されるようにな

りました。これこそが本来のアスリート発掘と言えるのではないのでしょうか。この、地域主導型のクリニックは今年度も続けていきたいと考えております。

【2019年度実施内容】

2019年度のクリニック実施会場は以下の表の通りです。U13アスリートクリニックを11会場、U16を8会場で予定しておりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で2月以降の会場については中止させていただきました。

【2020年度の展望】

ご存知のとおり、東京オリンピック・パラリンピックが延期となりました。本事業は例年7月からスタートしていましたが、オリンピックの影響で10月以降となることがすでに周知されております。開催に向けて十分な内容や準備の期間ができたと思え、前向きに考えていきたいと思っております。今年度はすでに委員会内にクリニックについて検討するワーキンググループが発足し、準備に余念がありません。今年度は、新たな教本や映像を使った動画などの作成も考えております。

また、昨年の全国普及育成担当者会議で発表した通り、名称を変更し、JAAF「U10みんな集まれ!! 陸上遊び」、「U13みんな集まれ!! 陸上運動」、「U16みんな集まれ!! 陸上の基本運動」とします。もちろん名称を変更するだけではありません。場

所を競技場や学校とし、なるべく多くの児童・生徒に参加してもらえるよう配慮します。内容についてはワーキンググループで精査をし、より「楽しく」学べるプログラムを準備します。また、他競技では幼児のカテゴリーを指導する団体もあり、少しでも遊びの中から陸上競技を学んでほしいとの願いから、U10カテゴリーを新たに開設します。こちらは初めての試みですので、実施した際にご報告したいと考えております。クリニック終了時に、参加者にアンケートのお願いをしております。「アスリートクリニックに参加してどう感じたか」という質問に対する回答の、最も多数を占めたのが「楽しかった」です。小学生、中学生どちらも90%を超える参加者から意見をいただき、とてもうれしく思います。このクリニックで感じた「楽しさ」が今後の陸上競技（その他のスポーツを含む）を続けるきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、このように毎年アスリートクリニックが開催できるのも、都道府県陸上競技協会の先生方のご尽力と、なにより元気に笑顔で参加してくる児童、生徒、保護者、指導者の方々のご理解とご協力あってのもの、心より感謝申し上げます。今年度もいろいろな機会でご一緒とお会いすることもあると思います。ぜひ忌憚なきご意見など頂ければ幸いです。今年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

	日程	7月21日(日)	7月28日(日)	8月19日(月)	9月14日(土)	10月5日(土)	11月10日(日)
U13	会場	北海道 東山公園 陸上競技場	静岡 草薙総合運動場 陸上競技場	山口 55フィールド	新潟 美山陸上競技場	沖縄 豊見城市立 ゆたか小学校	香川 Pikaraスタジアム
	参加者	28	58	28	27	31	63
	日程	11月10日(日)	11月23日(土)	12月14日(土)	12月15日(日)	2月11日(火)	
	会場	兵庫 ウインク競技場	神奈川 小田原市城山陸上 競技場	熊本 水前寺競技場	高知 春野総合運動公園 陸上競技場	茨城 古河市中央運動公園 陸上競技場	
	参加者	39	65	55	23	33	
	日程	7月27日(土)	9月8日(日)	11月17日(日)	12月1日(日)	1月12日(日)	
U16	会場	山形 NDソフトスタジアム 山形	香川 屋島 レクザムフィールド	新潟 デンカビッグスワ ンスタジアム	沖縄 名桜大学	徳島 ボカリスエッ トスタジアム	
	参加者	43	40	51	52	52	



2019年度U16指導者講習会実施報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 田中悠士郎

中学校での体育の授業や部活動は陸上競技を本格的に取り組んだり、様々な種目に親しんだりする絶好の機会として重要と言える。しかし、近年、全国の中学校では陸上競技部の減少や活動時間の制限、専門的な知識を有する指導者の不足など様々な課題が挙げられている。その一方で、各地域の陸上クラブの需要は高まっている。これにより生徒が学校の部活動以外の時間で陸上競技に取り組む機会が増え、学校とは違ったコミュニティができたり、専門的な指導を受けられたりするメリットがある。その反面、早期専門化やバーンアウトによる競技離脱などが心配されている。

本事業は、このような課題を少しでも解消すべく、若手教員や陸上競技を専門としない教員、地域クラブで指導する指導者を対象に指導の質的向上を目指すことを目的として実施した。

この指導者講習会は理論講習1時間と実技講習3時間、質疑応答30分程度で構成され、講師は本連盟指導者養成委員会の委員が担当する。まず理論講習では、陸上競技の指導方法に関する基礎理論として、コーチング哲学・コーチングスキルや安全対策が題材として取り扱われた。そして、実技講習では、走(短距離・障害)・跳(走高跳・走幅跳)・投(砲丸投・ジャベリックスロー)の基本的な練習方法を実際に体験し、指導ポイントについての理解を深めた。また、講習会の最後に講習内容に対する質問や日常の指導における疑問などに答える時間が設けられ、できるだけ受講者に寄り添った形での講習

会を目指した。

今回、2020年2月15日に行われた山梨会場での実施状況を報告する。会場は甲府市の中銀スタジアム、参加者は中学校教員を中心とする28名であった。事前の打ち合わせで若手教員が多いこと、専門とする種目以外の指導方法について若手指導者の疑問に答えながら実施して欲しいという要望があったため、実技講習ではグループを3つに分けて各種目を回るローテーション方式をとった。各グループには陸上競技協会強化普及部の方々に入って頂き、質疑応答においてファシリテーターも担って頂いた。その甲斐あって、多くの受講者から様々な質問や疑問が講師に投げかけられ、非常に活発な講習会となった。具体的には、開催された日が非常に寒かったことから、「短時間で身体の温まる効果的なウォーミングアップの方法を紹介して欲しい」、「走・跳・投に共通する基本的なドリルを紹介して欲しい」、「デモンストレーションを見せる位置に工夫があるのか？」などの質問があった。

本年度は、山梨会場の他に、長崎会場(11月30日)、佐賀会場(12月1日)、東京会場(2月9日)の全4会場で開催された。各会場30名前後の受講者が集まり、天候などに左右されることなく無事に終了した。

最後に、本事業の実施にあたり事前準備から当日の運営など、ご尽力いただいた各陸協関係者の皆様に感謝申し上げます。



世界陸連広告規程改訂に伴う国内適用について

競技運営委員会副委員長 関根春幸

世界陸連（以下WA）は広告規程を改訂し、2019年12月に新しい広告規程（Marketing and Advertising Regulations）をwebサイトに掲載した。これまでの構成とは異なった構成となっており、今回掲載された内容は

- C7.1 Marketing and Advertising Rules（広告規程総則）
- C7.2 Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories（International Competitions 1.1(a), 1.3 & 1.4）（国際大会定義1.1(a)、1.3、1.4で適用される衣類などの広告規程）、
- C7.3 Marketing and Advertising Regulations Events（International Competitions 1.1(a), 1.3 & 1.4）（国際大会定義1.1(a)、1.3、1.4で適用される競技会に関する広告規程）、
- C7.4 Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories（International Competitions 1.5 & 1.9）（国際大会定義1.5、1.9で適用される衣類などの広告規程）、
- C7.5 Marketing and Advertising Regulations Events（International Competitions 1.5 & 1.9）（国際大会定義1.5、1.9で適用される競技会に関する広告規程）

の5つで構成されている。国際大会のカテゴリー分けについてはGenerally applicable definitionsの中に記載されており、C7.2、7.3が適用される国際大会定義1.1(a)、1.3、1.4は国を代表して出場する国際大会を示しており、C7.4、7.5が適用される国際大会定義1.5、1.9はダイヤモンドリーグのような招待されたり、賞金が出るような国際大会を意味している。

本委員会では、まずトップ競技者が影響を受けるであろうC7.4の中でユニフォームへの表記について解釈を示すとともに国内適用について検討し定めることとした。C7.4およびその国内適用の規程化、ならびにC7.5及びその国内適用の規程化に関しては、21年度に向けて20年度中に整備することとする。

今回はまず競技者の衣類に関する広告（C7.4およびその国内適用）について2020年4月以降の考え方について次のように示すこととした。

なお、WA新規程に関してはWAのwebサイトに掲載されている、C7.4 Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories（International Competitions 1.5 & 1.9）（<https://www.worldathletics.org/about-iaaf/documents/book-of-rules>）のページの内容が優先されるものとする。

また下記に示した内容に関しては、競技者が参加する各大会の大会要項により制限される場合がある。

〈着用対象大会〉

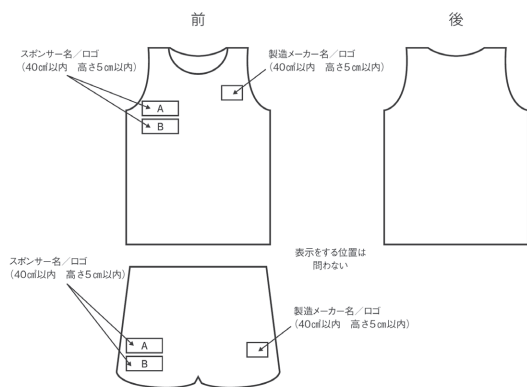
	WA新規程	国内適用
国際競技会	○	×
国内競技会		○

〈表記に関する考え方〉

- * クラブ名=登録所属名、あるいはそのクラブ名を表すグラフィックとする。
- * スポンサー名/ロゴは商品名、サービス名でも可とする。
- * アイテムごとに表示するスポンサーを変更することはできない。
- * 製造メーカーロゴは40cm²以内、高さ5cm以内とし、上半身、下半身にそれぞれ1ヶ所ずつとする。

〈WA新規程〉

- * 最大で下記まで表示できる
- * 名前/ロゴのサイズは40cm²（高さ5cm以内）、着ける場所は問わない（前でも後ろでも可）
- * 製造メーカー名/ロゴ以外の2ヶ所は別の会社のものでないといけない
- * 上半身と下半身で別のスポンサー名/ロゴを表示することはできない。
- 上半身：いずれかの方式で表示可能
 - ◇ スポンサー名/ロゴ×2
 - ◇ スポンサー名/ロゴ×1 + 登録所属名/ロゴ×1
- 下半身：いずれかの方式で表示可能
 - ◇ スポンサー名/ロゴ×2



◇ スポンサー名/ロゴ×1+登録所属名/ロゴ×1

〈国内適用〉

○学校以外

*最大で下記まで表示できる

*登録所属名/ロゴは当面、スポンサー名/ロゴでも可とする。

*クラブ名とスポンサーは同じ会社の別のサービス名でも可とする。

*上半身と下半身で別のスポンサー名/ロゴを表示することはできない。

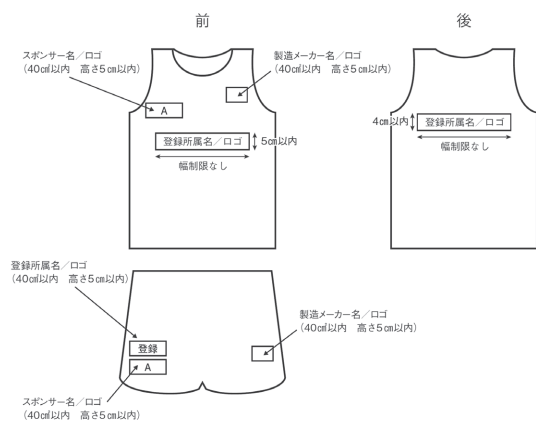
●上半身

◇前：スポンサー名/ロゴ×1 (40cm²以内、高さ5cm以内)+登録所属名/ロゴ×1(高さ5cm以内、幅制限なし)

後：登録所属名/ロゴ×1 (高さ4cm以内、幅制限なし)

●下半身

◇スポンサー名/ロゴ×1+登録所属名/ロゴ×1(それぞれ40cm²以内、高さ5cm以内)



〈国内適用〉

○学校

*最大で下記まで表示できる

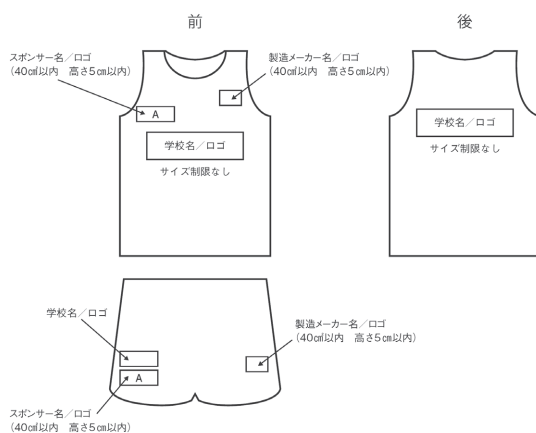
*上半身と下半身で別のスポンサー名/ロゴを表示することはできない。

●上半身

◇スポンサー名/ロゴ (40cm²以内、高さ5cm以内) ×1+学校名/ロゴ (大きき制限なし) を前後1ヶ所ずつ

●下半身

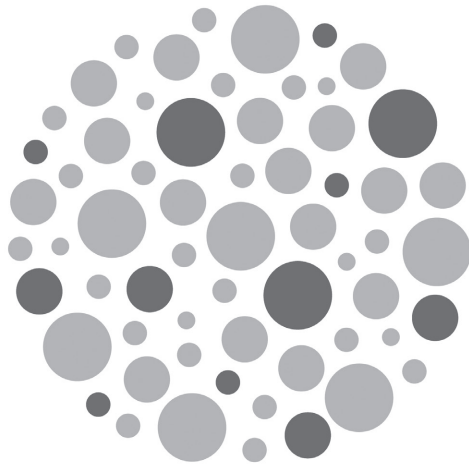
◇スポンサー名/ロゴ×1+学校名/ロゴ×1 (スポンサー名/ロゴは40cm²以内、高さ5cm以内、学校名/ロゴは制限なし)



●「ユニフォーム」以外の事項

〈アスリートビブスの大きさについて〉

従来ナンバーカードと表現されていたものが、昨今競技者名を表示することが多くなってきたことから、今回のルール改訂からアスリートビブスと表現するようになった。今回の広告規程の改訂によりC7.4で示されたアスリートビブスのサイズが横24cm×縦16cm (従来は横24cm×縦20cm) 以内に変更になった。しかしながら国内においては、このサイズ変更については即時適用せず、当面旧サイズでも認めることとした。



JAAF RunLink

MISSION

for Events

More Than a Race

大会を、大会以上の価値に。

for Runners

More Than a Day

人々の暮らしを、ランニングのある日常に。

日本陸上競技連盟はより良い大会作り、より素敵なランニングライフスタイルを支えていきます。

JAAF RunLink ホームページで
各界著名人のスペシャル対談公開中

RunLink



上記で検索、または
右記QRコードよりアクセスして下さい



大会観戦ガイド

〈日本陸上競技連盟主催大会・後援大会の中止・延期について〉

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月～6月に開催予定の本連盟主催大会につきましては中止・延期にて調整し、後援大会につきましては中止・延期の方向で要請をしております。

4月～6月までの各大会につきましては、下記をご参照ください。

日本陸上競技連盟主催・後援大会の中止・延期一覧

2020年4月3日現在

大会名	開催日	中止・延期
第29回金栗記念選抜陸上中長距離大会2020	4月11日	中止
第104回日本陸上競技選手権大会50km競歩	4月12日	中止
吉岡隆徳記念第74回出雲陸上競技大会	4月18・19日	延期
第22回長野マラソン	4月19日	中止
第68回兵庫リレーカーニバル	4月19日	中止
TOKYO Combined Events Meet 2020	4月24～26日	中止
第10回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン	4月26日	中止
第54回織田幹雄記念国際陸上競技大会	4月29日	中止
第36回静岡国際陸上競技大会	5月2日	延期（10月以降）
第31回ゴールデンゲームズinのべおか	5月4日	中止
2020水戸招待陸上	5月5日	中止
READY STEADY TOKYO-陸上競技	5月5・6日	中止
第7回木南道孝記念陸上競技大会	5月6日	延期
第104回日本陸上競技選手権大会・10000m	5月9日	延期
セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京	5月10日	延期
第30回仙台国際ハーフマラソン大会	5月10日	中止
第68回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会	5月15～17日	延期
第66回全日本中学校通信陸上競技大会	5月16日～7月31日	6月末までの開催大会は延期・中止を要請
Denka Athletics Challenge Cup 2020	6月5・6日	延期
布勢スプリント2020	6月7日	中止
第104回日本陸上競技選手権大会・混成競技 第36回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技	6月13・14日	延期
第104回日本陸上競技選手権大会	6月25～28日	延期
“日清食品カップ” 第36回全国小学生陸上競技交流大会	9月20日	6月末までの地区及び都道府県選考会は延期・中止の要請

事務局からのお知らせ

◆◆セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京 過去大会レース映像公開中!!◆◆



開催延期となりました、「セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京」の、過去9年分の注目レースの映像を日本陸連HP、YouTube、Twitterで公開しています!! この機会に是非、熱いレースをご覧ください!!

〈大会特設WEBサイト〉

<http://goldengrandprix-japan.com/>

◆◆日本陸連オフィシャルショップオープン!!◆◆

4月1日に日本陸連のオフィシャルショップを、オープンいたしました! 全国のアスレティクスファミリー、陸上ファンのためにJAAFオフィシャルグッズを販売いたします。

オープン第1弾は、昨年のセイコーゴールデングランプリや日本選手権の会場限定で販売し、人気を集めた「ハローキティコラボグッズ」を販売いたします。

今後も新たなJAAFグッズ・JAAFコラボグッズを販売していく予定ですので、是非ご利用ください!



〈日本陸連オフィシャルショップ〉

<https://jaafshop.official.ec/>

◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジンを好評配信中です。

登録は<https://www.jaaf.or.jp/mailmagazine/>か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
麻場 一徳 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869